

# 名大トピックス

NAGOYA UNIVERSITY TOPICS

No.266

2015年7月

第56回名大祭「邂逅」を開催



## 目次

### ●ニュース

第56回名大祭「邂逅」を開催	3
未来社会創造機構設立記念式典及びNIC竣工式を挙	4
行	
全学同窓会関西支部第10回総会を開催	5
全学同窓会遠州会20周年記念講演会・同窓会を開催	5
平成27年度春季新入留学生歓迎懇談会を開催	6
キャンパスクリーンウィークを実施	6

### ●知の未来へ

資源が豊かな発展途上国の問題	7
岡田 勇 (大学院国際開発研究科准教授)	

### ●知の先端

「グリア細胞」の視点から神経難病を研究する	8
山中 宏二 (環境医学研究所教授)	

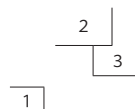
### ●部局ニュース

ITbM 新棟竣工記念式典を挙	10
行	
第3回ITbM国際シンポジウムを開催	11
第24回理学懇話会を開催	12
国際シンポジウム「アジアにおける女性のリーダーシップの推進」を開催	12
シンポジウム「巨大災害へのレジリエンスをどうとらえるか？」を開催	13
展示会「建物に見る病院と医学校の歴史」を開催	13
改組記念シンポジウム及び講演会を開催	14
第13回フレーバー物理とCP対称性の破れに関する国際会議を開催	14
タイ王国カセサート大学教育学部が訪問	15
科学技術英語ライティングに関する特別講演会を開催	15
第1回地球教室を開催	15
第61回博物館コンサートを開催	16
キャンパス講座「達人と話そう」を開催	16
第110回防災アカデミーを開催	16
●受賞者一覧	17
●本学関係の新聞記事掲載一覧 平成27年5月16日～6月15日	22
●イベントカレンダー	25
●ちょっと名大史	
宇宙線望遠鏡ドームと宇宙線研究室資料	28

# 第56回名大祭「邂逅」を開催







- 1 メインストリートの様子
- 2 後夜祭の様子
- 3 ステージ企画の様子

第56回名大祭が6月4日(木)午後から7日(日)までの4日間、「邂逅」をテーマに東山キャンパスで開催されました。このテーマには、普段はキャンパス内で自分たちという枠にとらわれがちである名大生にとって、名大祭という場が、普通に生活していたら出会えないような、自分たちの知らなかった人やモノに出会うきっかけになって欲しい、また、逆にそういった感銘を与えるような発信をする場になってほしいという思いが込められています。

本祭開催に先立ち、5月10日(日)にはプレ企画として「仮装行列」が、白川公園と栄周辺で行われました。

本祭初日となる4日(木)には授業終わりの名大生がステージ付近で足を止める姿が多く見られ、名大祭の訪れを肌で感じていました。夜に行われた「当夜祭」のダンスコンテストでは各チームから迫力の演技が披露され、初日の夜を盛り上げました。

5日(金)はあいにくの雨となりましたが、屋内企画でも大きな盛り上がりを見せました。特に近隣町内会の方々の協力のもと今年で10回目を迎える「盆踊り」では、本学の学生だけでなく、お子さん連れのご家族や、友達と遊びに来た小学生なども多く見られ、学生と地域の方々との交流が盛んに行

われる場となりました。また、本学への留学生も参加し、盆踊りなどの日本の文化に触れる機会にもなりました。

6日(土)、7日(日)は天候に恵まれ、北側メインストリートに並んだ「模擬店」では、保健所の助言を得た厳しい衛生管理体制のもと、39団体の飲食物の屋台が名大祭を盛り上げました。

学術講演会企画『私のカレーなる人生～あなたの日常にスパイスを～』では、愛知県出身の宗次徳二氏より天涯孤独の生い立ちからその生きざまについて述べられ、学生だけでなく参加した多くの来場者にとって、これからの人生を豊かにするような講演となりました。また、学内各所では研究公開といった学術的な企画も行われ、普段見ることのできない本学の最先端の研究を、来場者は興味深く見学していました。

その他にも様々な企画が学内各所で行われ、特にメインステージで行われたよさこいやダンスなどのパフォーマンスは、多くの来場者を魅了し、発表



者自身も来場者と共に楽しむ姿が見られました。

開催期間中を通して行われたテーマ企画「この邂逅を忘れない」では、今年のテーマ「邂逅」にちなみ、名大祭内で生まれた多くの人やモノとの出会いを1枚1枚写真に収め、1つの大きなモザイクアートとして発表し、大変な賑わいを見せました。

最終日の夜には、特設ステージにおいて「後夜祭」が行われ、冒頭では迫力の和太鼓の演奏で来場者を引き込み、最後には恒例の火舞が行われ、第56回名大祭の最後を彩りました。

青色LEDの灯る豊田講堂が見守る東山キャンパスの地で、今年も様々な人やモノが行き交い、多くの「邂逅」が訪れた熱い名大祭となりました。

## 未来社会創造機構設立記念式典及び NIC 竣工式を挙

未来社会創造機構設立記念式典及びナショナルイノベーションコンプレックス (NIC) 竣工式が、6月12日(金)、理学南館坂田・平田ホール及びNICにおいて挙行されました。

本式典は、昨年4月に設置された本機構が拠点を置く建物となるNICが、今年3月に竣工したことを記念して執り行われたものです。

記念式典では、松尾総長のあいさつに始まり、川上伸昭文部科学省科学技術・学術政策局長、大村秀章愛知県知事、太田稔彦豊田市長より来賓あいさつが述べられ、続いて、齋藤永宏未来社会創造機構教授が概要説明を行いました。

その後、内山田竹志トヨタ自動車株式会社代表取締役会長による「科学技術イノベーションと産学官連携への期待」、住川雅晴COIビジョン3ビジョナリーリーダーによる「新たな挑戦『夢の社会実装の実現』」と題した記念講演が行われ、約200名の招待者及び学内の教職員・学生が耳を傾けました。

記念講演会終了後は、会場をNICに移し、竣工式が執り行われました。式典ではまずテープカットが行われ、引



あいさつする総長

き続き、グループ分けされた来賓者が内覧会に参加しました。内覧会では、最初に1階 Idea Stoa (アイデアストア) においてツアーガイドスを行った後、8階建ての建物に入居する本機構の各研究室をはじめ、学術研究・産学官連携推進本部、産学連携基盤技術コア、COI 研究推進ラボ等の施設公開を行いました。また、本施設の目玉でもあるドライビングシミュレータの視察や屋外では自動車の自動走行運転のデモも行われ、参加者の興味を引いていました。

内覧会終了後は、建物1階のエントランスホールにおいて祝賀会が行われました。國枝理事のあいさつに続き、外村正一郎国立研究開発法人科学技術振興機構理事より来賓あいさつが述べられた後、江崎研司名古屋COI拠点長からの乾杯の発声により会が和やかに始まりしました。企業からの関係者、学内関係者等の懇談にも花が咲き、未来社会創造機構設立記念式典及びNIC竣工式は盛会裏に終了しました。



テープカットの様子



自動走行運転デモ



## 全学同窓会関西支部第10回総会を開催

名古屋大学全学同窓会関西支部の設立10周年記念となる第10回総会が、5月16日(土)、大阪市内の中央電気倶楽部において開催され、会員約60名が出席しました。

今回は10周年を記念し、赤崎 勇特別教授、天野 浩工学研究科教授のノーベル物理学賞受賞に関するパネル展示、ビデオ上映、本学のノーベル賞受賞関連オリジナル



講演会場の様子

グッズの販売などの多彩な企画を催し、出席者に大変好評でした。

総会は、三洋化成工業株式会社名誉顧問である笈 哲男全学同窓会関西支部長の開会あいさつの後、松尾総長から、「名古屋大学の現状と課題」と題した講演が行われました。総長からは、「日本屈指の大学から世界屈指の大学へ」をスローガンとし、課題を実現していくための大学の重要な役割について述べられました。

次いで、伊藤義人全学同窓会代表幹事から、全学同窓会の昨年度の活動・財政状況の報告及び来年度の事業計画、今後の課題等について説明がありました。続いて、橋本孝之日本アイ・ビー・エム株式会社 (IBM) 副会長から、「IBMのグローバル経営と次世代IT技術がもたらす新たな社会」と題した講演が行われました。講演の中では、IBMの発展の大きな原動力となったダイバーシティの取り組みやワトソンプロジェクトなどの説明があり、出席した会員にとって大変刺激のある講演会となりました。

総会・講演会後の懇親会では、例年のように、部局支部同窓会の代表者から近況報告があり、大変和やかなうちに終了しました。

## 全学同窓会遠州会20周年記念講演会・同窓会を開催

名古屋大学全学同窓会遠州会20周年記念「天野浩名古屋大学大学院教授特別講演会」が、6月13日(土)、浜松市の静岡文化芸術大学講堂において、地元新聞社と共催で開催されました。天野教授は、静岡県立浜松西高等学校の出身であり、全学同窓会の依頼を受け、出身地である浜松での講演会が実現しました。



第20回同窓会であいさつする総長

講演会には松尾総長、伊藤義人全学同窓会代表幹事、遠州会会員・家族・同窓生、地元高校生・教職員、企業・団体関係者、更に一般市民合わせて約480名が出席しました。

講演では、前半に、受賞式出席のために訪れたスウェーデンでの1週間のエピソードについて、多くの写真を映しながら説明がありました。後半には、窒化ガリウム (GaN) の結晶創成について述べられた後、LEDはエネルギー省力化・生活の利便性向上に大きく貢献しており、さらに将来的な展望として、LEDによる医療分野への応用の可能性についても触れられました。

講演会終了後には遠州会の第20回同窓会が総長、伊藤代表幹事、天野教授と会員105名の出席のもと、浜松市内のホテルで開催されました。来賓として総長から名古屋大学の現状と今後の計画、また自身の抱負など多岐にわたる話があり、伊藤代表幹事からは全学同窓会フィリピン支部の設立、名古屋大学基金の取り組みなどについて説明がありました。その後の懇親会では、世代を超えた会話が進み、さらにビンゴゲームで盛り上がり、最後に記念撮影を行い、盛況の内に終了しました。

## 平成27年度春季新入留学生歓迎懇談会を開催

平成27年度春季新入留学生歓迎懇談会が、5月22日(金)、フレンドリー南部において開催されました。この懇談会は、この春から本学へ留学してきた学生に向けて今後の留学生活を実のあるものになるよう激励し、留学生同士のみならず、留学生関係教職員との懇談を通して一層の相互理解・交流を深めることを目的としており、当日は、新



懇談会の様子

入留学生、教職員など約250名の参加がありました。

最初に松尾総長から歓迎、激励のあいさつがあり、これを受け、新入留学生を代表して、大学院理学研究科のエクスナー・ビリー（ドイツ）さんと、大学院経済学研究科の韓丹（韓国）さんが、それぞれ日本での留学について抱負等を述べました。続いて、三枝教育推進部長による乾杯の発声後懇談にうつり、新入留学生が総長や教職員を囲んで、にこやかに歓談したり、記念撮影を行う姿が会場のあちらこちらで見られました。懇談会は、町田国際教育交流センター長の閉会のあいさつの後、大盛況のうちに終了となりました。

## キャンパスクリーンウィークを実施

大学構内環境美化運動「キャンパスクリーンウィーク」が、名大祭終了後の6月8日(月)から12日(金)の間実施されました。

この取り組みは、環境保全に対する関心を高めるために平成元年から実施されており、全学の教職員及び学生の協力を得て、例年、環境月間である6月と12月の年2回行っ



説明を受ける職員

ています。

10日(水)の午後には、梅雨の中休みで薄日の差す蒸し暑い陽気の中、事務局の職員約150名が、一斉に東山キャンパス構内に分かれて、空き缶・紙くず等を拾うなどして、清掃を行いました。

また、名古屋市の構成員として市内の環境美化に貢献するため、大学構内だけでなく付設する市道についても併せて清掃を行いました。さらに今回は、新たに建設されたナショナルイノベーションコンプレックス（NIC）の周りも竣工式を前に念入りに清掃する姿が見受けられました。

本学では、年2回のキャンパスクリーン（屋外清掃）を実施することにより、今後も「ゴミのないきれいなキャンパス」を目指していきます。



## 資源が豊かな発展途上国の問題

岡田 勇  
大学院国際開発研究科准教授

ですが、20世紀後半には資源所有についての国家主権が広く認められています。国営企業による生産も多く、今日では資源は一般的に生産国の管理化にあると言えます。

しかし、たとえ資源に対する国家主権が確定したとしても、様々な問題があります。例えば経済学では、資源が豊かな国ほど低成長に陥るという説が主張されてきました。その原因として、資源以外の輸出産業の成長を阻害することや国際的な価格変動に対する脆弱性などがあげられ、「資源の呪い」と呼ばれてきました。これに対しては、資源を管理する国家の能力が問題であって、ノルウェーなどのように国家制度がしっかりしていれば「呪い」ではない、という反論も出されてきました。

たしかに国家制度の重要性には一理あるのですが、資源が豊富な状況下では国家制度の形成そのものにも問題が起きることが指摘されてきました。大航海時代のスペイン帝国や20世紀のベネズエラを扱った研究は、資源が豊かな時には放漫財政や非能力的な政府機構になりがちで、最終的には債務危機や政治危機を迎えることを指摘しています。究極的には、豊富な資源が人々のメンタリティに及ぼす影響こそが問題であるという人もいます。

しかし、豊富な資源を持ちながら脆弱性に対処してきた国もありますし、人々は資源だけでメンタリティを変えるわけでもないでしょう。生産国の人々はグローバルな影響によって翻弄されながらも、主体的な取り組みを行ってきました。豊富な資源とどう付き合うかというのは、未だ十分には解明されていない問題だと考えています。

石油・天然ガス・鉱物といった天然資源は、いわば地球のいたずらで世界各地に散らばっています。人類はそのような資源を必要としてきたため、大航海時代から今日まで資源を求める争いが生まれてきました。私の研究分野は比較政治学で、ラテンアメリカ地域を主な対象としています。最近では石油や鉱物資源が豊富であることが発展途上国の政治・経済・社会にどのような影響を及ぼすのかに関心を持っています。

近年の国際情勢をみれば、いまだに資源は国家間あるいは集団間紛争の種になることもしばしば



南米ボリビアの首都ラパスにある鉱山労働組合の本部事務所 (1944年設立)



ボリビアのオルロにある鉱山労働運動のモニュメント。手にライフルをもった労働者が描かれている。

# 「グリア細胞」の視点から神経難病を研究する

山中 宏二 環境医学研究所教授

## グリア細胞とは

運動神経に原因不明の細胞死が起こる ALS（筋萎縮性側索硬化症）は、全身の筋力低下や麻痺をきたす神経難病であり、昨年、ALS アイスパケットチャレンジの募金活動を通じて、本疾患は広く知られるようになりました。脳や脊髄は、神経細胞だけでなく、その周囲をとりまく多くの細胞によって神経系の機能や恒

常性が保たれています。神経以外の細胞として最もよく知られる細胞がグリア細胞です。もともと、グリア (glia) とは膠（にかわ）を意味するギリシャ語に由来し、神経膠細胞という名前で呼ばれています。神経のすきまを埋める「のり」のような細胞という趣旨で命名され、神経が主役なら、グリアは脇役という位置づけでした。

## ALS におけるグリア細胞の関与

ALS の病巣では、グリア細胞の活性化や増生が観察されますが、神経細胞死につづく二次的な反応であるという考え方が主流でした。ALS の約10%は遺伝性に発症し、遺伝性 ALS の原因遺伝子として初めて同定された SOD1 の変異遺伝子を全身に発現するマウス (変異 SOD1 マウス) は、脊髄運動神経の神経変性により骨格筋の麻痺をおこし、ALS の病態をよく再現します。我々は、神経の機能調節や保護機能を有するグリア細胞であるアストロサイトや、中枢神経系における免疫担当細胞のミクログリアに注目しました。これらのグリア細胞は、モデルマウス、ALS 患者の病巣で活性化していますが、病態に関与しているかどうかは不明でした。これらの細胞群の役割を明らかにするため、変異型 SOD1 遺伝子を細胞群ごとに除去できる ALS マウスを樹立しました。運動神経、ミ

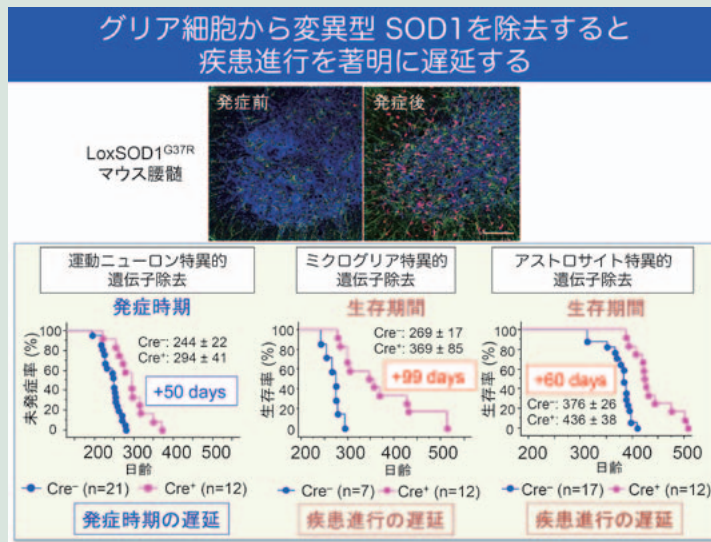


図1 グリア細胞から変異型 SOD1 を除去すると ALS マウスの疾患進行が遅延し、生存期間が延長する。ALS 患者由来の変異型ヒト SOD1 遺伝子を全身に発現するモデルマウス ( $LoxSOD1^{G37R}$ ) は、発症すると脊髄のグリア細胞であるアストロサイト (緑)、ミクログリア (赤) が増え、活性化します (上右)。(下) このモデルマウスから変異遺伝子を細胞群ごとに取り除くことができます。運動ニューロンから変異 SOD1 を除去すると、発症時期が遅れる (下左) が、グリア細胞から変異 SOD1 を除去した場合 (ミクログリア (下中央)、アストロサイト (下右)) は、病気の進行を遅らせることによって生存期間を延長します。マウスの生存曲線 (変異 SOD1 遺伝子を除去した群:  $Cre^+$  (赤)、対照群:  $Cre^-$  (青)) を示した。(Boillee & Yamanaka et al., Science 2006, Yamanaka et al. Nat Neurosci 2008より改変、引用)



クログリア、アストロサイトそれぞれから変異型 SOD1 を除去したところ、運動神経においては発症時期のみが遅延しましたが、ミクログリア及びアストロサイトから変異遺伝子を除去すると ALS の進行速度を著しく遅延し、生存期間が延長しました (図 1)。これらの研究結果から、グリアは脇役でも、単なる「のり」でもなく、ALS の病態に積極的に関与していることが判明し、ALS は神経だけの病気ではないと考えられるようになりました。

## グリア細胞における治療標的分子 TGF- $\beta$ の同定

我々は、ALS の進行に関わるグリア細胞として同定したミクログリア、アストロサイトにおける病態を解明することを目標に研究をすすめています。これらのグリアが産生する因子のなかで、ALS 患者やモデルマウスのアストロサイトにおいて増加する分子 Transforming growth factor- $\beta$  (TGF- $\beta$ ) を ALS の進行に関わる分子として同定しました。ALS のアストロサイトでは TGF- $\beta$  が過剰に放出され、グリア細胞が本来もつ神経保護性の機能を失われることを見いだしました。さらに、TGF- $\beta$  シグナル阻害剤を発症後の変異 SOD1 マウスに投与するとマウスの生存期間が延長しました。これらの実験結果から、グリア細胞における過剰な TGF- $\beta$  を抑制することが ALS の新たな

治療戦略につながると考えています (Endo et al. Cell Reports, 2015)。

## 今後の展望

本疾患で傷害される運動神経の変性機序を明らかにするとともに、脳・脊髄の環境を維持するグリア細胞の病態を理解することが、ALS をはじめとする神経難病の克服にむけて重要であると考えています。今後も、病態に立脚し、治療法開発につながる研究を発信していきたいと思ひます。

1992年京都大学医学部卒業。神経内科臨床医を経て、2000年同大学院医学研究科博士課程修了。2001~2006年米国カリフォルニア大学サンディエゴ校博士研究員。2006年理化学研究所脳科学総合研究センターユニットリーダー。2009年同チームリーダー。2013年名古屋大学環境医学研究所教授。2014年より副所長兼務。  
専門分野：神経科学、神経内科学、ALS の分子病態。  
モットー：あきらめず、楽天的に。研究・診療ともチームワーク。

やまなか こうじ

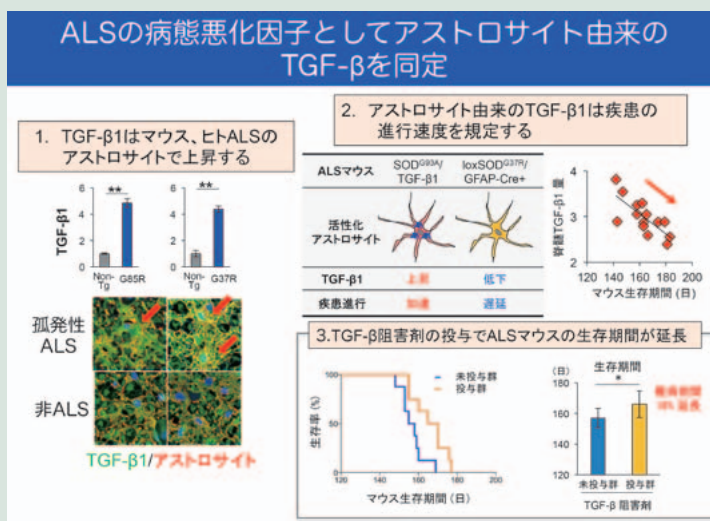
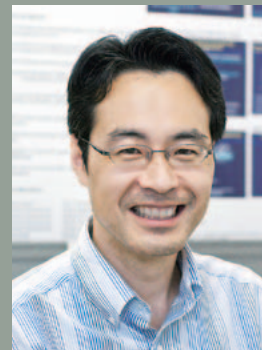


図 2 ALS の病態悪化因子としてグリア細胞由来の TGF- $\beta$  を同定した。(1) ALS モデルマウスや ALS 患者の脊髄組織では TGF- $\beta$  はアストロサイトで増加していました。(2) 次に、脳・脊髄のアストロサイトで TGF- $\beta$  の産生量をさらに増加するように遺伝子操作した ALS モデルマウス (SOD1<sup>G93A</sup>/TGF- $\beta$ ) は、病気の進行が加速して生存期間が短縮しました。一方、アストロサイトから変異型 SOD1 遺伝子を除去した ALS マウス (loxSOD1<sup>G37R</sup>/GFAP-Cre<sup>+</sup>; 図 1 下右参照) では、アストロサイトの TGF- $\beta$  量が低下し、生存期間が延長しました。さらに、ALS マウスの生存期間と TGF- $\beta$  値は負に相関しました。(3) 実験的治療として、TGF- $\beta$  シグナル阻害剤を発症後の ALS マウスに投与すると進行が遅延し、発症後の生存期間を約 18% 延長しました。(Endo et al. Cell Reports 2015 より改変、引用)

# ITbM 新棟竣工記念式典を挙

●トランスフォーマティブ生命分子研究所

トランスフォーマティブ生命分子研究所 (ITbM) は、5月25日(月)、新棟竣工記念式典を挙りました。同研究所は、平成24年10月に世界トップレベル研究拠点プログラム (WPI) に採択され、平成25年4月に設立された国際研究拠点です。本学の強みである最先端の分子合成化学と動植物科学の連携により、新しい学際領域研究を推進するとともに、我々の生活を大きく変えるような生命機能分子 (トランスフォーマティブ生命分子) を創出し、社会が直面する環境問題、食糧問題、医療技術の発展といった様々な課題に取り組むべく研究活動を行っています。このITbMの研究を加速する新研究棟が今年3月末に竣工したことを受け、この度、記念式典を執り行う運びとなりました。

式典には、国内外から120名の方々の出席がありました。伊丹 ITbM 拠点長による開会の辞に続き、松尾総長のあいさつ、続いて黒木登志夫 WPI プログラムディレクター、安藤慶明文部科学省大臣官房審議官、ダニエル・ウォールフ クイーンズ大学総長ら来賓の方々より祝辞が述べられました。



あいさつする安藤慶明文部科学省大臣官房審議官



あいさつする伊丹 ITbM 拠点長

また、ITbM 新棟のコンセプトについて、脇坂圭一施設・環境計画推進室准教授より説明が行われました。新棟は、総床面積7,934m<sup>2</sup>、6階建ての構造を有し、化学者、生物学者、理論科学者が研究室や分野の壁を超えて“Mix”する空間作りを基本コンセプトとしていること、また2フロアを占める実験室“Mix-Lab”、らせん階段によって Mix-Lab と直結された研究者オフィス“Mix-Office”を擁し、可能な限り内壁を取り払うことよって、研究者間の自由活発な交流を実現していることなどが紹介されました。

記念のテープカットは新棟内のエントランスホールに移動して執り行い、式典であいさつを述べた方々に加えて國枝理事、野依良治特別教授、近藤孝男特任教授、巽 和行特任教授の9名が参列しました。

記念式典終了後には新棟見学会を開催し、式典への来賓に加え、併せて開催した ITbM 国際シンポジウムの招待講演者や、他の WPI 拠点関係者など多数が参加し、大いに盛り上がりました。



テープカット



## 第3回 ITbM 国際シンポジウムを開催

●トランスフォーマティブ生命分子研究所



アシュラフ・ブリック教授による受賞講演（第11回 Hirata Award）



フェン・チャン博士による受賞講演（第1回 Tsuneko & Reiji Okazaki Award）

トランスフォーマティブ生命分子研究所（ITbM）は、5月25日（月）、26日（火）の2日間、豊田講堂において国際シンポジウム「3rd International Symposium on Transformative Bio-Molecules (ISTbM-3)」を開催しました。昨年と同様に、動植物生物学、計算科学と合成化学の分野で世界をリードする6名の研究者を招き講演が行われました。

シンポジウムは午前中のITbM新棟開所式に引き続き行われ、國枝理事、スティーブン・リス クイーンズ大学副総長の祝辞の後に、伊丹ITbM拠点長からITbMを支えるコンセプト「ミックス」が新棟に拡大し、融合研究の成果が続々と生まれつつあることが報告されました。

その後、藤吉好則創薬科学研究科特任教授、藤田 誠東京大学教授、グレゴリー・ヴォス シカゴ大学教授、ウォルフ・フロマー カーネギー研究所教授、クリストファー・チャンカリフォルニア大学バークレー校教授、ショーン・カトラカリフォルニア大学リバーサイド校教授ら6名の招待講演者によって「分子」をキーワードとした世界最先端の研究成果が披露されました。また、本学の大学院理学研究科に新たに参画した松林嘉克教授（生命理学）、阿部 洋教授

（化学）、フロハンス・タマ教授（物理学）の3名から生物学、ケミカルバイオロジー、計算科学の分野の最新の研究成果が、ITbMからは山口副拠点長（機能性分子）、吉村 崇教授（動物性理学）、大井貴史教授（合成化学）の3名によりITbMにおける生物学と化学の融合研究についての研究成果が発表されました。

さらに今年も、10年の歴史を誇り有機化学の分野で活躍する若手研究者を表彰する「平田メモリアルレクチャー」をリニューアルした「第11回 Hirata Award」と、生物学の世界のライジングスターを表彰する「第1回 Tsuneko & Reiji Okazaki Award」（第1回岡崎賞）も併催されました。化学合成したタンパク質を用い、ユビキチンを介したタンパク質分解の仕組みを明らかにしたアシュラフ・ブリック イスラエル工科大学教授に第11回 Hirata Awardが、ゲノム編集技術の応用と実用化に優れた功績を残したフェン・チャン教授（Broad Institute of Harvard and MIT）に記念すべき第1回岡崎賞が、それぞれ上村大輔名誉教授、岡崎恒子名誉教授から手渡されました。

国内外から参加した450名余りの研究者・学生は、生物学、化学そして計算科学と多岐にわたる講演に真剣に聞き入り、構造生物学、ケミカルバイオロジー、ライブイメージング、機能性分子、核酸といった研究成果について分野の壁を飛び越えて白熱した議論を展開し、活気溢れるシンポジウムとなりました。



国際シンポジウムでの記念撮影

## 第24回理学懇話会を開催

●大学院理学研究科

大学院理学研究科は、6月6日(土)、理学南館坂田・平田ホールにおいて第24回理学懇話会を開催しました。同研究科広報委員会では年に2回、広報誌「理 Philosophia」を発行し、一般市民へサイエンスの面白さや魅力を発信するとともに、定期的に「理学懇話会」と題した公開講演会を開催しています。



サイエンスカフェの様子

今回はテーマを「植物を動かすもの」としました。地面に根を下ろし、「動く」というイメージのない植物ですが、顕微鏡のレベルで見ると一部の細胞が活発に動き、重要な役割を果たしています。そのような現象の研究の最前線で活躍するトランスフォーマティブ生命分子研究所 (ITbM) の2名の教授による講演を行いました。東山哲也 ITbM 教授は植物の受精に関わる多くの細胞を王女や王子のキャラクターに例えることで、複雑な現象を物語としてわかりやすく紹介しました。この発表では蛍光標識された細胞の動く様子の美しい動画がたくさん披露されました。続く木下俊則 ITbM 教授は植物が環境の変化に応じて気孔を開閉する仕組みを解説し、それを人工的に操作することで光合成活性を増加させた成果や、植物の耐乾性を高めた成果を紹介しました。この研究へは農業作物の増産に結びつく期待がもたれることから、講演後には会場から多くの質問が出ました。

懇話会終了後には、来場していた高校生たちが二人の講演者を囲んで歓談できる「サイエンスカフェ」を理学南館セミナー室で開催しました。大きなホールよりもリラックスした雰囲気の効果もあってか、高校生たちは熱心に質問し、科学に対する強い思いを語っていました。

## 国際シンポジウム「アジアにおける女性のリーダーシップの推進」を開催

●大学院国際開発研究科、博士課程教育リーディングプログラム「『ウェルビーイング in アジア』実現のための女性リーダー育成プログラム」

大学院国際開発研究科、博士課程教育リーディングプログラム「『ウェルビーイング in アジア』実現のための女性リーダー育成プログラム」は、5月19日(火)、ES総合館ESホールにおいて、国際シンポジウム「アジアにおける女性のリーダーシップの推進」を開催しました。同シンポジウムは、国連ウイメンが行う HeForShe キャンペーンの

パイロット事業「IMPACT 10x10x10」において、松尾総長が女性の活躍を推進する世界10大学の学長の一人として選出されたことを受けて開催しました。学外からの参加者も含め、約170名の参加がありました。

総長による歓迎の辞、松坂浩史文部科学省大臣官房文部科学広報官及び松川るい外務省総合外交政策局女性参画推進室長による来賓あいさつ、東村副理事による主催者あいさつ、岡田副理事による趣旨説明に続き、イザベル・ゲレロ元世界銀行副総裁による“Investing in Women's Leadership is Preparing for Future”と題する基調講演が行われました。またパネルディスカッションでは、高井次郎教育発達科学研究科教授の司会のもと、ゴウリ・イシュワラン グローバル教育・リーダーシップ財団理事長、内藤由治セレンディップ・コンサルティング名誉顧問・元ポッカ会長、トリ・ムンプニ エネルギー・海洋資源省大臣シニアアドバイザー・NGO IBEKA 代表、柳沢香枝国際協力機構 (JICA) 理事をパネリストとして、女性のリーダーシップの推進に向けた課題と方策について発表と討論が行われました。続く質疑応答では男性からの質問も多く出され、パネリストを交えて白熱した議論が行われました。



記念撮影



## シンポジウム「巨大災害へのレジリエンスをどうとらえるか？」を開催

●大学院環境学研究科、減災連携研究センター

大学院環境学研究科附属持続的共発展教育研究センター、減災連携研究センターは、5月20日(水)、減災館において、シンポジウム「巨大災害へのレジリエンスをどうとらえるか？ビッグデータ・インフラ技術・土地利用マネジメントの統合」を開催しました。これは、文部科学省の大学発グリーンイノベーション創出事業「グリーン・



会場の様子

ネットワーク・オブ・エクセレンス (GRENE)」環境情報分野「環境情報技術を用いたレジリエントな国土のデザイン」(GRENE-City、代表者：林同センター長)の成果報告の一環として行われたものです。GRENE 総括である小池俊雄東京大学工学研究科教授による基調講演「ビッグデータでレジリエンスをこうとらえる」では、地球規模での環境問題やレジリエントな社会の構築には、確かな情報の共有による分野間連携だけでなく、科学と社会の連携によるステークホルダーの協働が重要であることが述べられました。続いて、GRENE-City メンバーによるショートスピーチ「私はレジリエンスをこうとらえる」と、中林一樹明治大学特任教授、難波伸治名古屋市役所企画課長らが参加したパネルディスカッション「レジリエンスをどうとらえるか？」では、レジリエンスの概念、どのように確保向上していけばよいか、そのためにハードとソフトのアプローチをどう融合させるかについて活発な討論が行われ、レジリエンスについての様々な発想を分野横断的に繰り返し議論することの重要性が指摘されました。

## 展示会「建物に見る病院と医学校の歴史」を開催

●附属図書館医学部分館

附属図書館医学部分館は、2月13日(金)から5月29日(金)までの間、展示会「建物に見る病院と医学校の歴史」を開催しました。これは同館4階にある医学部史料室の所蔵品の中から、広く日本と西洋における病院と医学校の歴史を建物から振り返るもので、古書、絵画、図面、写真などを展示する企画です。



展示会の様子

1443年に創設された近代病院の原型といわれる施療院オテル・デュー (Hôtel-Dieu 神の家) や、16世紀のイタリアの病院は、キリスト教精神と深く結びついています。日本では、福井藩の医学所 済世館が1805年に創設され、医学教育と研究を行いました。

名古屋では、尾張藩医師総取締の浅井家が邸内に建てた私塾を1831年に医学館と改称し、毎年、春と秋に医師試験を行いました。1871年(明治4年)、洋医学校を名古屋にも設立すべき、という洋学者伊藤圭介らの建議により、名古屋藩は、評定所跡(名古屋市中区丸の内3丁目)に仮病院を、本町通りを挟んだ西側の奉行所跡に仮医学校を設置しました。その後、医学講習場などを経て、1914年に、愛知県立医学専門学校・愛知病院は、現在の医学部・附属病院がある鶴舞キャンパスへ新築移転し、2014年に移転後100周年を迎えました。展示では、「愛知県公立病院癲狂室復元図」(1880年)、「愛知医学校前面の図」(1884年)、「記念写真帖：創立五拾週年昇格祝賀」(1920年)、「空襲による被災と応急復旧写真」(1945年頃)、「医学部附属病院整備計画図」(1955年頃)など、それぞれの時代を象徴する建物の図や写真が多く、来館者の関心を集めました。

## 改組記念シンポジウム及び講演会を開催

### ●心の発達支援研究実践センター

心の発達支援研究実践センターは、5月23日(土)、豊田講堂において、改組記念シンポジウム及び講演会「心の発達とつながり～よりよく生きる～」を開催しました。これらは、平成13年に設置された「発達心理精神科学教育研究センター」が、平成27年4月1日をもって「心の発達支援研究実践センター」に改組したことを記念したもので、研



シンポジウムの様子

究者や教員、行政関係者、一般市民など約300名の来場者がありました。

開会式では、松下理事から主催者あいさつとして同センター改組の経緯と来場者へのお礼を述べられた後、金井センター長が改組の概要を紹介しました。第1部のシンポジウムでは、「乳幼児期の子どもの育ちと子育てのメンタルヘルス」、「子どもを取り巻く環境とメンタルヘルス」、「青年期のインターネット依存とメンタルヘルス」、「学生相談から見た大学生のこころの世界とメンタルヘルス」の内容で話題提供し、フロアも交えて活発な議論となりました。第2部の講演会では、井上恵嗣文部科学省初等中等局特別支援教育課長から「特別支援教育の現状と課題」、オドゲレル モンゴル国立教育大学講師からは「モンゴルの伝統教育と特別支援教育」、「発達早期からの理解と支援」、「発達障害に関わる教職員の理解の促進」についてなど国際的な視点からも興味深い講演となりました。

同センターはこの改組を機に、心の問題が複雑化する現代のニーズに対応し、個人の心の発達支援のみでなく、個と社会のつながり、あるいは組織・集団全体の心理に対する支援研究、実践に取り組んでいきます。

## 第13回フレーバー物理とCP対称性の破れに関する国際会議を開催

### ●素粒子宇宙起源研究機構

素粒子宇宙起源研究機構は、5月25日(月)から29日(金)の5日間、野依記念学术交流館において、「第13回フレーバー物理とCP対称性の破れに関する国際会議 (Flavor Physics and CP Violation)」（FPCP2015）を開催しました。この会議は、素粒子物理学分野の国際会議であり、特に3世代6種類存在するクォーク・レプトンの反応やCP対称性の破れに焦点をあてたものです（フレーバーとは素粒子の種類のこと）。2002年にフィラデルフィア大学で第1回目が開催されて以降、ほぼ毎年開催され、この度、第13回

会議を本学で開催する運びとなりました。

会議では、LHC実験やBファクトリー実験のデータ解析で得られた新しい結果が紹介され、そのいくつかは新粒子存在のヒントとなる興味深いもので、今後のLHC-Run2実験や、スーパーBファクトリー実験、J-PARC加速器での実験の結果に期待が高まるものでした。また、28日(木)には、2008年にノーベル物理学賞を受賞した小林 誠特別教授による「CP Violation & Six Quark Model」と題した特別講演があり、坂田モデルから小林-益川理論、そして

実験的検証にいたる道のりが紹介されました。会議には、世界各地から140名の研究者が集まり、大学院生・研究員など若手研究者の参加も多く、盛況の内に終了しました。なお、本会議は名古屋大学研究大学強化促進事業Bメニュー（国際会議支援）の支援を受けて開催されました。



記念撮影



## タイ王国カセサート大学教育学部が訪問

●大学院教育発達科学研究科



記念撮影

大学院教育発達科学研究科へ6月8日(月)、タイ王国カセサート大学教育発達科学部人材・コミュニティ資源開発学科代表団による訪問が行われました。カセサート大学同学科からはスンティ・スリスアンタン学科長、プラソン・タンピチャイ副学科長、アピチャート・ジャイアリー副学科長及び講師5名、大学院生20名が訪れ、同研究科の大谷副研究科長、高井次郎教授及び中島美奈子講師から、同研究科の説明を受けるとともに、今後の部局間交流の可能性について意見交換を行いました。カセサート大学は国際学術コンソーシアム(AC21)のメンバー大学であり、本学の重要な交流パートナーであるため、今後のさらなる交流の発展を望んでおり、教員及び学生が交流できるイベント等について検討を進める予定です。

## 科学技術英語ライティングに関する特別講演会を開催

●大学院工学研究科



講演会の様子

大学院工学研究科は、5月13日(水)、IB電子情報館大講義室において、特別講演会「修士・博士課程で困らないための科学技術英語の基本『工学部の英語』」を開催しました。これは、同研究科国際交流室が企画し、講師として工業英検を主催している日本工業英語協会の理事である平野信輔氏を招き、本学のほか、三重大学や愛知教育大学の教職員も対象として行われ、70名以上の参加がありました。

初めに、西山聖久工学研究科講師から、工学分野の英語論文で用いられている語彙の特殊性に関する説明があった後、平野氏から、科学技術英語ライティングの中でも特に英語論文執筆に必要な技術に着目した講演がありました。ネイティブではない英語ユーザーの立場から、難解な語彙を使うことに固執せず出来るだけ多くの人に伝わる英語を書くことの重要性が強調されました。今後も、同室を中心に、科学技術英語ライティングの知識習得の機会を同学部・研究科において充実させることを目指します。

## 第1回地球教室を開催

●博物館



石灰岩に含まれる化石を観察する参加者(名古屋駅)

博物館は、5月23日(土)、24日(日)の2日間、今年度1回目となるフィールドセミナー地球教室「ナゴヤで化石をさがそう!」を開催しました。今回は、小中学生や一般の方28名が参加し、名古屋市内の建築物の石材に含まれる化石の見学を行いました。1日目は、同館の実験室において岩石や化石の種類に関する講義を行った後、建材としてカットされた岩石の表面に化石がどのように表れるかを知るために、現生の貝殻やアンモナイトの化石を切断してきた断面を観察しました。この予習を踏まえ、2日目には名古屋駅と栄地区周辺に出かけ、壁や柱に用いられている石材からさまざまな化石を発見・観察する体験をスタンプラリー形式で行いました。通勤など普段の生活でみられた場所にも、意外な自然が隠されていたことに参加者は驚きながら、大変興味深く化石を観察していました。なお、この事業は名古屋市科学館との協定事業で、愛知大学名古屋一般教育研究室の援助を受けています。

## 第61回博物館コンサートを開催

●博物館



コンサートの様子

博物館では、5月30日(土)、第61回博物館コンサート「宇宙からのメッセージ フルート・キーボードのアンサンブル」を開催しました。当日は265名の聴衆を迎え館内は満員となりました。今回は、現在開催中の特別展「関戸弥太郎と宇宙線望遠鏡」の関連企画として、演奏の前に展示の紹介が行われました。

「民謡ファンタジー (モルナール)」から始まった全7曲の演奏は、観客を透き通ったフルートの音色とキーボードの多彩な音の世界の虜にしました。また、初めは少し緊張ぎみに聴いていた方も、日本の曲メドレーでは、観客と演奏者が一体となって歌う場面もあり、リラックスして十分に楽しんでいる様子でした。コンサート後には、「とても良かった、今度はいつコンサートがあるのか」、「キーボードはいろいろな音を作るんだね」、「ただ聞いているだけではなくて、一緒に参加できると楽しいよ」、「草笛のフルートは味があった」などの質問や感想が寄せられました。

## キャンパス講座「達人と話そう」を開催

●博物館



講演する澤本名誉教授

博物館では、5月9日(土)から6月13日(土)までの間、全4回にわたり、「達人と話そう～祝・ノーベル賞受賞～」を開催しました。これは、名古屋市教育委員会生涯課との連携事業「キャンパス講座」として行われ、名古屋産業技術研究所(名産研)の共催を得て開催しており、6年目となる今回は延べ330名の参加がありました。今回は講師として、足立 守 PhD 登龍門推進室特任教授、澤木宣彦名誉教授、竹田美和名誉教授、水谷宇一郎名誉教授の4名を招き、昨年のノーベル物理学賞の受賞テーマである青色発光ダイオード関連の講演を行いました。一般の方に科学の話をするのは、話す方も聴く方も大変ですが、講師の努力と探究心旺盛な参加者によって、充実した企画になりました。参加者からは「ちょっと難しすぎた内容もあった。ノーベル賞の授賞式の写真がたくさんあって、臨場感があった。LEDの歴史が良くわかった」などの感想が寄せられました。

## 第110回防災アカデミーを開催

●減災連携研究センター



講演する田代准教授

減災連携研究センターは、5月21日(木)、減災館において、第110回防災アカデミーを開催しました。今回は、田代 喬減災連携研究センターライフライン地盤防災寄附研究部門准教授が「東海地方が抱える気象災害リストとその減災対応」と題して講演を行い、65名の参加がありました。講演では、1959年の伊勢湾台風や2000年の東海豪雨の様子を振り返りながら、日本列島はこうした気象災害リスクがもともと高い上に、濃尾平野では地盤沈下の影響もあってさらに厳しい条件下にあること、気候変動や都市化の影響でリスクが年々増していることが紹介されました。ゲリラ豪雨では短時間の集中的な雨で排水機能が麻痺して内水氾濫が起きたことが紹介され、こうした状況を正しく把握するには10分雨量が有効であることが指摘されました。浸水には地形が大きく影響していることも述べられ、これから梅雨の季節を迎えるにあたって身近なところに潜むリスクを改めて認識する機会となりました。



## 受賞者一覧

### 勲章関係等

受章日	受賞名	受賞者の所属・職名	受賞者	備考
H27. 4.29	瑞宝中綬章	名誉教授	石橋 善弘	
H27. 4.29	瑞宝中綬章	名誉教授	齋藤 英彦	
H27. 4.29	瑞宝中綬章	名誉教授	道家 紀志	
H27. 4.29	瑞宝中綬章	名誉教授	真継 隆	
H27. 4.29	瑞宝中綬章	名誉教授	山内 脩	
H27. 4.29	瑞宝小綬章	元事務局長	福島 忠彦	
H27. 4.29	瑞宝単光章	元医学部・医学系研究科 経理課機械保守工	片岡 達治	

### 教員

受賞日	受賞名	受賞者の所属・職名	受賞者	備考
H26. 9.29	日本法中毒学会 第2回(H26)ブランデンベルガー・松本賞	大学院医学系研究科 特任助教	草野麻衣子	
H26.10. 2	第28回(2014年)日本ロボット学会誌論文賞	未来社会創造機構教授	新井 史人	
H26.11.11	土木学会 平成26年度全国大会 第69回年次学術講演会 優秀講演者賞	大学院工学研究科助教	尾花まき子	
H26.12.22	平成26年度溶接学会優秀研究発表賞	大学院工学研究科助教	廣畑 幹人	
H27. 2.22	第7回ロート皮膚医学研究賞	大学院医学系研究科准教授	杉浦 一充	
H27. 3. 3	公益財団法人 光科学技術研究振興財団 平成26年度 研究表彰	大学院創薬科学研究科講師	小坂田文隆	
H27. 3.16	電気化学会 第11回 Honda-Fujishima Prize	大学院工学研究科助教	亀山 達矢	
H27. 3.17	第8回日本木材学会論文賞	大学院生命農学研究科助教	松尾 美幸	他2名と連名
H27. 3.17	2015年度日本植物生理学会 学会賞	大学院理学研究科特任教授	町田 泰則	
H27. 3.17	2015年度第22回日本植物生理学会 PCP 論文賞	大学院理学研究科助教	篠原 秀文	松林嘉克(大学院理学研究科教授)と連名
H27. 3.17	情報処理学会モバイルコンピューティングと ユビキタス通信研究会 山下記念研究賞	大学院工学研究科助教	梶 克彦	
H27. 3.18	内藤記念科学振興賞	大学院理学研究科特任教授	近藤 孝男	
H27. 3.20	Ecological Research Paper Award 2014	大学院生命農学研究科研究員 (PD)	梅村 光俊	竹中千里(大学院生命農学研究科教授)と 連名
H27. 3.21	第47回日本原子力学会賞 論文賞	大学院工学研究科教授	山澤 弘実	
H27. 3.21	Best Poster Award, European Association of Urology	大学院医学系研究科准教授	山本 徳則	
H27. 3.24	パワーアカデミー萌芽研究優秀賞	大学院工学研究科助教	栗本 宗明	
H27. 3.27	日本化学会 第29回「若い世代の特別講演会」 講演賞	大学院工学研究科助教	廣戸 聡	
H27. 3.28	平成26年度日本化学会 第67回日本化学会賞	大学院工学研究科教授	八島 栄次	
H27. 4. 5	Nagoya Section Conference Presentation Award, 28th IEEE International Conference on Micro Electro Mechanical Systems (MEMS2015)	大学院工学研究科特任助教	早川 健	
H27. 4.14	APEX/JJAP Editorial Contribution Award	大学院工学研究科准教授	植田 研二	
H27. 4.15	平成27年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞 研究部門	大学院工学研究科教授	天野 浩	
H27. 4.15	平成27年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞 研究部門	未来社会創造機構教授	新井 史人	
H27. 4.15	平成27年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞	高等研究院特任講師	西山 朋子	
H27. 4.16	米国イリノイ大学 R.C. Fusion Visiting Professor 選出	トランスフォーマティブ 生命分子研究所教授	伊丹健一郎	
H27. 4.16	平成26年度日本呼吸器学会 学会奨励賞	高等研究院特任助教	進藤有一郎	
H27. 4.17	2014年度日本機械学会奨励賞(研究)	大学院工学研究科准教授	丸山 央峰	
H27. 4.17	2014年度日本機械学会賞(論文)	大学院工学研究科准教授	山口 浩樹	新美智秀(大学院工学研究科教授)、 松田 佑(エコトピア科学研究所准教授)、 他2名と連名
H27. 4.17	2014年度日本機械学会賞(論文)	エコトピア科学研究所准教授	松田 佑	亀谷知宏(大学院工学研究科・D3)、 他3名と連名
H27. 4.17	未踏科学技術協会 超伝導科学技術研究会 第19回超伝導科学技術賞	大学院工学研究科特任講師	田中 雅光	
H27. 4.18	日本放射線技術学会 平成26年度学会賞	大学院医学系研究科教授	小寺 吉衛	
H27. 4.19	第103回日本泌尿器科学会総会 日本泌尿器科学会総会賞	大学院医学系研究科准教授	山本 徳則	
H27. 4.19	第103回日本泌尿器科学会総会 日本泌尿器科学会総会賞	大学院医学系研究科助教	松川 宜久	

## 受賞者一覧

受賞日	受賞名	受賞者の所属・職名	受賞者	備考
H27. 4.21	Journal of the Physical Society of Japan 2014 Highly Cited Article	大学院工学研究科助教	片山 尚幸	菅原健人（大学院工学研究科 D1）、澤 博（大学院工学研究科教授）、他 9 名と連名
H27. 4.21	日本学術振興会第146委員会賞	大学院工学研究科特任講師	田中 雅光	
H27. 4.26	Gilbert Morgan Smith Medal	大学院理学研究科特任教授	近藤 孝男	
H27. 5. 2	第104回日本病理学会総会 日本病理学会賞	大学院医学系研究科教授	豊國 伸哉	
H27. 5. 7	日本作物学会 第239回講演会優秀発表賞	大学院生命農学研究科助教	大井 崇生	
H27. 5.13	日本レオロジー学会 2014年度奨励賞	大学院工学研究科助教	野呂 篤史	
H27. 5.13	2015 Pacific Rim Frontiers in Chemistry Lectureship	大学院工学研究科教授	石原 一彰	
H27. 5.14	第71回日本顕微鏡学会学術講演会優秀ポスター賞	大学院医学系研究科助教	辻 琢磨	藤本豊士（大学院医学系研究科教授）、他 1 名と連名
H27. 5.15	第50回（平成26年度）東海化学工業会賞学術賞	大学院工学研究科助教	野呂 篤史	
H27. 5.16	Best Poster Award, American Urologic Association Annual Meeting 2015	大学院医学系研究科准教授	山本 徳則	
H27. 5.16	第 1 回加藤郁乎記念賞	名誉教授	加藤 國安	
H27. 5.18	日本機械学会 2015年度ロボティクス・メカトロニクス部門 功績賞	未来社会創造機構教授	新井 史人	
H27. 5.21	第56回日本神経学会学術大会 学術大会優秀賞 2015年ポスター部門トピックス基礎部門	環境医学研究所特任助教	遠藤 史人	
H27. 5.22	日本都市計画学会 2014年論文奨励賞	大学院環境学研究科助教	高取 千佳	
H27. 5.23	日本アフリカ学会 第27回（2015年度）研究奨励賞	高等研究院特任助教	吉田早悠里	
H27. 5.26	地球電磁気・地球惑星圏学会 田中館賞	太陽地球環境研究所准教授	西谷 望	
H27. 5.27	2014年度 地球惑星科学振興西田賞	大学院理学研究科准教授	鈴木 建	
H27. 5.27	2014年度 地球惑星科学振興西田賞	太陽地球環境研究所准教授	三好 由純	
H27. 5.27	新化学技術推進協会 第 4 回新化学技術研究奨励賞	未来社会創造機構特任講師	小野島 大介	
H27. 5.28	安全工学会 2014年度安全工学論文賞	大学院工学研究科教授	吉川 典彦	他 2 名と連名
H27. 5.28	第64回高分子学会年次大会 高分子研究奨励賞	大学院工学研究科准教授	櫻田 啓	
H27. 5.29	2015年日本建築学会賞（業績）	施設・環境計画推進室 工学部施設整備推進室 大学院環境学研究科奥宮研究室 施設管理部		4 者連名受賞
H27. 5.29	日本塑性加工学会賞 論文賞	大学院工学研究科助教	阿部 英嗣	湯川伸樹（大学院工学研究科准教授）、他 5 名と連名
H27. 5.29	電気学会 第71回電気学術振興賞 論文賞	大学院工学研究科准教授	横水 康伸	
H27. 6. 2	Runner-Up Of The Best Paper Award, The 10th Asian Control Conference 2015 (ASCC2015)	大学院工学研究科教授	早川 義一	崔 浩函（大学院工学研究科 M2）、他 3 名と連名
H27. 6. 3	土木学会構造工学委員会 第61回構造工学シンポジウム論文賞（土木部門）	大学院工学研究科助教	廣畑 幹人	伊藤義人（大学院工学研究科教授）、他 1 名と連名
H27. 6. 5	平成27年度日本ビタミン学会学会賞	大学院生命農学研究科教授	堀尾 文彦	
H27. 6. 5	第111回日本精神神経学会 2014年フォーリア賞	大学院医学系研究科 客員研究者	大岡 治恵	金井篤子（教育学部・教育発達科学研究科教授）、アレクシッチ・ブランコ（大学院医学系研究科特任准教授）、尾崎紀夫（大学院医学系研究科教授）と連名
H27. 6. 6	日本腎臓学会 第58回総会 会長賞	大学院医学系研究科特任助教	坂田 史子	伊藤恭彦（大学院医学系研究科寄附講座教授）、水野正司（大学院医学系研究科寄附講座准教授）、鈴木康弘（大学院医学系研究科寄附講座助教）、他 5 名と連名
H27. 6.11	2015年 European Inventor Award（欧州発明家賞） 外国人発明家賞	理学部特別招へい教授	飯島 澄男	
H27. 6.11	日本酸化ストレス学会 八木記念学術奨励賞	大学院医学系研究科講師	岡崎 泰昌	
H27. 6.11	第83回レーザー加工学会講演会優秀ポスター賞	大学院工学研究科助教	溝尻 瑞枝	櫻井淳平（大学院工学研究科准教授）、秦 誠一（大学院工学研究科教授）、他 1 名と連名
H27. 6.12	人工知能学会 2014年度研究会 優秀賞	未来社会創造機構特任助教	森田 純哉	平山高嗣（大学院情報科学研究科特任准教授）、間瀬健二（大学院情報科学研究科教授）、山田和範（グリーンモビリティ連携研究センター特任准教授）と連名



## 事務職員・技術職員

受賞日	受賞名	受賞者の所属・職名	受賞者	備考
H27. 4.25	日本循環器学会循環器再生医科学賞 第9回(2014年度、79th 学術集会 基礎研究部門)	医学部附属病院臨床検査技師	菊地 良介	
H27. 5.28	日本医学図書館協会協会賞	附属図書館医学部分館 特任専門員	蒲生 英博	

## 学生

受賞日	受賞名	受賞者の所属・学年	受賞者	備考
H26.10.16	2014年度日本木材学会中部支部大会 優秀発表賞	大学院生命農学研究科 M2	稲継 実栗	山本浩之(大学院生命農学研究科教授)、 吉田正人(大学院生命農学研究科准教授)、 松尾美幸(大学院生命農学研究科助教)、 他4名と連名
H27. 1.20	電気・電子・情報関係学会 東海支部連合大会奨励賞	大学院情報科学研究科 M1	河地 玄	
H27. 2. 7	平成26年度東海三大学通信系研究室合同修論 発表会(電子情報通信学会東海支部主催、 IEEE名古屋支部協賛) 優秀発表賞	大学院工学研究科 M1	石谷 直也	
H27. 3. 1	電気学会東海支部長賞	工学部4年	古田 凌	
H27. 3. 1	電気学会東海支部長賞	工学部4年	宮路 仁崇	
H27. 3. 2	NCSP2015 Student Paper Award	大学院情報科学研究科 M2	窄山 勝也	
H27. 3. 3	名古屋大学電気電子・情報工学科 平成26年度電気電子・情報工学科 合同卒業研究発表会 優秀賞	工学部4年	佐藤 翔	
H27. 3. 4	日本材料学会東海支部 第9回学術講演会 優秀講演賞(学術分野)	大学院工学研究科 M1	白井 瑛人	
H27. 3. 9	平成26年度電子情報通信学会東海支部 卒業研究発表会口頭発表部門 最優秀卒業研究発表賞	工学部4年	佐藤 翔	
H27. 3. 9	平成26年度電子情報通信学会東海支部 卒業研究発表会口頭発表部門 優秀卒業研究発表賞	工学部4年	不破 力	
H27. 3.11	第16回「環境放射能」研究会 研究会奨励賞	工学部4年	杉浦 宏樹	
H27. 3.11	電子情報通信学会学術奨励賞	大学院工学研究科 M2	千賀 敬太	
H27. 3.13	シンポジウム「モバイル'15」 田村博研究奨励賞優秀賞	大学院情報科学研究科 M2	山川 達也	
H27. 3.14	第62回応用物理学会春季学術講演会 「第5回 JSAP PHOTO CONTEST」優秀賞	大学院工学研究科 M1	千原 真志	
H27. 3.15	第18回 ふくい風花随筆文学賞 優秀賞	文学部4年	宇野 陽香	
H27. 3.15	Student Fellow Award of the Public Choice Society	大学院経済学研究科 D3	須佐 大樹	
H27. 3.15	Student Award for The Best Poster Presentation, The 2nd International Symposium Plant Environmental Sensing	大学院理学研究科 D3	板谷 知健	
H27. 3.15	第20回ロボティクスシンポジウム 最優秀論文賞	大学院工学研究科 M1	杉浦 広峻	他3名と連名
H27. 3.17	情報処理学会 2014年度(平成26年度)山下記念研究賞	大学院工学研究科 M2	佐々木謙太郎	
H27. 3.17	情報処理学会 2014年度(平成26年度)山下記念研究賞	大学院情報科学研究科 M2	細江 成洋	
H27. 3.17	日本音響学会2014年秋季研究発表会 学生優秀発表賞	大学院情報科学研究科 M1	林 知樹	
H27. 3.17	情報処理学会 第76回全国大会 大会奨励賞	大学院工学研究科 M2	佐々木謙太郎	
H27. 3.18	電子情報通信学会 2014年 フォトニックネットワーク若手研究賞	大学院工学研究科 M1	寺田 佑貴	
H27. 3.19	情報処理学会 第77回全国大会 学生奨励賞	大学院工学研究科 M2	大塚 嗣巳	
H27. 3.19	情報処理学会 第77回全国大会 学生奨励賞	大学院工学研究科 M2	服部 昇平	
H27. 3.19	情報処理学会 第77回全国大会 学生奨励賞	大学院工学研究科 M2	堀田 尚希	
H27. 3.19	情報処理学会 第77回全国大会 学生奨励賞	大学院工学研究科 M2	水野 壮	
H27. 3.19	情報処理学会 第77回全国大会 学生奨励賞	大学院工学研究科 M1	福田 智広	
H27. 3.19	電子情報通信学会 第11回フォトニックネットワーク研究会学生 ワークショップ ショートプレゼン賞	大学院工学研究科 M1	上田 恒	
H27. 3.19	電子情報通信学会 第11回フォトニックネットワーク研究会学生 ワークショップ 優秀賞	大学院工学研究科 M1	上田 恒	

## 受賞者一覧

受賞日	受賞名	受賞者の所属・学年	受賞者	備考
H27. 3.20	化学工学会 第80年会本部大会学生賞 銀賞	工学部 4年	中島綾衣梨	
H27. 3.20	化学工学会 第80年会本部大会学生賞 銀賞	工学部 4年	間野 翔	林 祐衣 (大学院工学研究科 M2)、 高田昇治 (全学技術センター技術専門職員)、 神田英輝 (大学院工学研究科助教)、 後藤元信 (大学院工学研究科教授) と連名
H27. 3.21	Poster Award for the Research Category, AMDIA - 2015 Annual Conference	大学院医学系研究科 D2	神谷 訓康	足立拓史 (大学院医学系研究科 M1)、 山田純生 (大学院医学系研究科教授)、 他 2名と連名
H27. 3.22	平成26年度第120回日本解剖学会総会・全国 学術集会 第92回日本生理学会大会合同大会 優秀演題賞	大学院医学系研究科 D3	今井 則博	
H27. 3.24	Young Author Award (計測自動制御学会人工生命体システム部会)	大学院情報科学研究科 M2	朝倉 淳	
H27. 3.24	2014年度日本建築学会東海支部 学生優秀学術講演賞	大学院環境学研究科 M2	吉田 圭佑	
H27. 3.25	日本化学会東海支部長賞	大学院工学研究科 M2	角谷 直紀	
H27. 3.25	日本化学会東海支部長賞	大学院工学研究科 M2	横井 寛生	
H27. 3.25	日本化学会東海支部長賞	大学院工学研究科 M2	林 祐衣	
H27. 3.25	日本化学会東海支部長賞	工学部 4年	松井恵理子	
H27. 3.25	日本化学会東海支部長賞	工学部 4年	丸山 莉果	
H27. 3.25	電気学会優秀論文発表賞	大学院工学研究科 D2	中野 裕介	
H27. 3.25	平成27年電子・情報・システム部門 メタボリズム社会・環境システム研究会 電気学会 C 部門技術委員会奨励賞	大学院工学研究科 M2	紀藤 翔平	
H27. 3.25	電気学会東海支部長賞	工学部 4年	宮路 仁崇	
H27. 3.25	Best Paper Presentation Award, 2014 IEEE DEIS Japan Chapter	大学院工学研究科 M1	浅井 孝憲	栗本宗明 (大学院工学研究科助教)、 加藤丈佳 (エコトピア科学研究所准教授)、 鈴置保雄 (大学院工学研究科教授)、 舟橋俊久 (エコトピア科学研究所教授)、 他 5名と連名
H27. 3.25	Best Paper Presentation Award, 2014 IEEE DEIS Japan Chapter	大学院工学研究科 M1	山下 優	栗本宗明 (大学院工学研究科助教)、 加藤丈佳 (エコトピア科学研究所准教授)、 鈴置保雄 (大学院工学研究科教授)、 舟橋俊久 (エコトピア科学研究所教授) と 連名
H27. 3.26	日本薬学会第135年会 優秀発表賞	大学院創薬科学研究科 M1	牧野 亜依	
H27. 3.27	第85回 日本衛生学会学術総会 若手優秀演題賞	大学院医学系研究科 D2	李 香	大神信孝 (大学院医学系研究科講師)、 モハメド ナズムル アーサン (大学院医学系研究科外国人研究員)、 加藤昌志 (大学院医学系研究科教授)、 他 3名
H27. 3.28	日本薬学会第135年会 優秀発表賞	大学院創薬科学研究科 M2	岡田 法大	
H27. 3.29	日本化学会第95春季年会 (2015) 学生講演賞	大学院理学研究科 D3	浅井 健吾	
H27. 3.29	日本化学会第95春季年会 (2015) 学生講演賞	大学院理学研究科 D3	山口 敦史	
H27. 3.30	Challenge ESICUP 2015, Short Runtime Competition, Third Prize	大学院情報科学研究科 M2	岩澤 宏紀	胡艶楠 (大学院情報科学研究科 D2)、 橋本英樹 (大学院情報科学研究科助教)、 柳浦睦憲 (大学院情報科学研究科教授) と 連名
H27. 3.30	Best Poster Presentation Award, ISPlasma 2015/IC-PLANTS2015	大学院工学研究科 M1	マルジアンシャ マルディス	
H27. 4.13	日本化学会 第95春季年会 (2015) 学生講演賞 (CSJ Student Presentation Award 2015)	大学院工学研究科 D3	土居 哲也	
H27. 4.13	日本化学会 第95春季年会 (2015) 学生講演賞 (CSJ Student Presentation Award 2015)	大学院工学研究科 D2	山下 賢二	水野麻依 (大学院工学研究科 M2)、 波多野学 (大学院工学研究科准教授)、 石原一彰 (大学院工学研究科教授) と連名
H27. 4.13	日本化学会 第95春季年会 (2015) 学生講演賞 (CSJ Student Presentation Award 2015)	大学院工学研究科 D2	吉本 将悟	
H27. 4.16	第71回日本放射線技術学会総会学術大会 優秀学生賞	大学院医学系研究科 M2	土屋 沙貴	
H27. 4.18	第71回日本放射線技術学会 技術新人賞	大学院医学系研究科 D1	羽場 友信	
H27. 4.19	第71回日本放射線技術学会総会学術大会 銅賞	大学院医学系研究科 M2	岡本 千鶴	
H27. 4.24	Best Student Oral Paper Award, The 4th Advanced Lasers and Photon Sources Conference	大学院工学研究科 D2	川越 寛之	



## 受賞者一覧

受賞日	受賞名	受賞者の所属・学年	受賞者	備考
H27. 4.24	Best Student Oral Paper Award, The 4th Advanced Lasers and Photon Sources Conference	大学院工学研究科 M2	安藤 栄充	
H27. 4.29	Top Ten Best Paper Awards, The 14th ITS Asia-Pacific Forum	大学院工学研究科 D3	宮 磊	山本 俊行 (エコトピア科学研究所教授)、森川 高行 (未来社会創造機構教授) と連名
H27. 5. 1	日本化学会第95春季年会 学生講演賞	大学院創薬科学研究科 D2	村山 司	
H27. 5. 2	日本病理学会総会発表賞	医学部 4年	神田 容	
H27. 5. 7	日本植物病理学会創立100周年記念大会 学生優秀発表賞	大学院生命農学研究科 M2	神谷 信孝	
H27. 5. 7	日本植物病理学会学生優秀発表賞	大学院理学研究科 M2	森 毅	
H27. 5.14	空気調和・衛生工学会論文賞 (学術論文部門)	大学院環境学研究科 M2	岩田 香織	松原祐子 (大学院環境学研究科 M2)、齋藤輝幸 (大学院環境学研究科准教授)、久野 寛 (大学院環境学研究科教授) と連名
H27. 5.14	日本顕微鏡学会 第71回学術講演会 優秀ポスター賞 [材料部門]	大学院工学研究科 M1	小國 和樹	武藤俊介 (エコトピア科学研究所教授) 他4名と連名
H27. 5.14	電子情報通信学会 知的環境とセンサネットワーク研究専門委員会 若手研究奨励賞	大学院工学研究科 M2	石川 陽介	
H27. 5.14	電子情報通信学会 知的環境とセンサネットワーク研究専門委員会 若手研究奨励賞	大学院工学研究科 M1	森 敦史	
H27. 5.18	情報処理学会東海支部学生論文奨励賞	大学院情報科学研究科 D2	呉 偉	
H27. 5.18	日本機械学会若手優秀講演フェロー賞	大学院工学研究科 D2	室崎 裕一	
H27. 5.18	日本機械学会若手優秀講演フェロー賞	大学院工学研究科 M2	宋 元儀	
H27. 5.18	日本機械学会若手優秀講演フェロー賞	大学院工学研究科 M2	杉浦 広峻	
H27. 5.18	日本機械学会若手優秀講演フェロー賞	大学院工学研究科 M2	中原 康	
H27. 5.18	日本機械学会若手優秀講演フェロー賞	大学院工学研究科 M2	田代 和也	
H27. 5.23	日本オペレーションズ・リサーチ学会研究部会 「評価のOR」 学生奨励賞	大学院情報科学研究科 M1	松下 健	
H27. 5.27	Japan Chapter Young Award, IEEE Robotics and Automation Society	大学院工学研究科 M2	杉浦 広峻	
H27. 5.28	廃棄物資源循環学会 平成27年度 春の研究発表会最優秀ポスター賞	大学院環境学研究科 M1	佐藤 大起	
H27. 5.28	低温工学・超電導学会 平成27年度 優良発表賞	大学院工学研究科 D2	三浦 峻	
H27. 5.29	高分子学会優秀ポスター賞	大学院工学研究科 M2	大野 慶太	
H27. 5.29	高分子学会優秀ポスター賞	大学院工学研究科 M1	石橋 遼真	
H27. 5.30	平成27年度日本皮膚科学会 基礎医学研究費 (資生堂寄付)	大学院医学系研究科 D4	柴田 章貴	秋山真志 (大学院医学系研究科教授)、杉浦一充 (大学院医学系研究科准教授)、小川 靖 (医学部附属病院助教) と連名
H27. 5.30	日本環境共生学会学術大会 第17回学術大会ポスター発表優秀発表賞	大学院環境学研究科 M2	黒田 将平	
H27. 5.30	平成27年度分離技術会年会奨励賞	大学院工学研究科 D1	上森 千穂	
H27. 5.30	平成27年度分離技術会年会奨励賞	大学院工学研究科 M2	中村 啓吾	向井康人 (大学院工学研究科准教授) と連名
H27. 5.30	平成27年度土木学会関西支部年次学術講演会 優秀発表賞 第七部門	工学部 4年	野中 一鴻	
H27. 5.30	第11回日本近世文学会賞	大学院文学研究科 D3	河村 瑛子	
H27. 6. 2	日本リモートセンシング学会優秀論文発表賞	大学院環境学研究科 D3	石玉 勝	山口 靖 (環境学研究科教授)、他1名と連名
H27. 6. 3	電子情報通信学会東海支部学生研究奨励賞 (博士)	大学院情報科学研究科 D3	河畑 則文	
H27. 6. 3	電子情報通信学会東海支部学生研究奨励賞 (博士)	大学院情報科学研究科 D3	胡 艶楠	
H27. 6. 3	電子情報通信学会東海支部学生研究奨励賞 (修士)	大学院情報科学研究科 M2	大谷 健登	
H27. 6. 4	Young investigator Paper Award, 2015Development, Growth and Differentiation	大学院理学研究科 D2	松原 由幸	鈴木孝幸 (大学院理学研究科助教) と連名
H27. 6. 7	第24回柿衛賞	大学院文学研究科 D3	河村 瑛子	
H27. 6.12	BEST Paper Award, The 15th International Workshop on Junction Technology (IWJT2015)	大学院工学研究科 M2	高橋 恒太	坂下満男 (大学院工学研究科助教)、黒澤昌志 (エコトピア科学研究所特任講師)、竹内和歌奈 (大学院工学研究科助教)、中塚 理 (大学院工学研究科准教授)、財満鎮明 (エコトピア科学研究所教授)、他1名と連名

受賞者の所属・職名又は学年は、受賞当時

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成27年5月16日～6月15日]

記事	月日	新聞等名
1 赤崎 勇本学特別教授が京都大学から名誉博士の称号を授与された	5.16 (土)	日経 (朝刊)
2 本学と高知大学の研究チームは、三重県内の約2000年前の地層で、巨大な津波があったことを示す厚さ約60センチの堆積物を発見したと発表	5.16 (土) 5.17 (日)	読売 毎日 (朝刊)
3 なるほどランド：益川敏英本学特別教授がアインシュタインについて「ノーベル賞に匹敵する三つの理論を立て続けに発表した科学者は歴史上ほかにいません」と語る	5.17 (日)	中日 (朝刊)
4 腹腔鏡に潜むリスク 体への負担軽減のはずが…患者死亡 長尾能雅医学部附属病院教授は「腹腔鏡手術の信頼が揺らいでいる」と語る	5.17 (日)	日経 (朝刊)
5 安田あゆ子医学部附属病院病院講師は本学がトヨタ自動車株式会社と連携し、品質管理や人材教育のノウハウを病院での治療に取り入れていくことについて「トヨタの改善の目線が病院組織を変える」と語る	5.17 (日)	中日 (朝刊)
6 新刊とうかい：書籍「文学部の逆襲」塩村 耕文学研究科教授編	5.19 (火)	読売
7 本学の就職支援室の職員が売り手市場が鮮明になった今年の就職活動について「大手を中心に先輩の就職率が高水準だったことで、4年生らの気が緩まないか心配だ」と語る	5.19 (火)	日経 (夕刊)
8 本学は国連ウィメンが進める「HeForShe」キャンペーンで世界の手本となる大学に日本で唯一選ばれた	5.20 (水)	日経 (朝刊)
9 時のおもりのエネルギーミックス議論の虚構 池内 了本学名誉教授	5.20 (水)	中日 (朝刊)
10 濱口元総長が中部電力株式会社の社外監査役に選任された	5.20 (水) 5.21 (木)	読売 中日 (朝刊) 中日 (朝刊)
11 野依良治本学特別教授が科学技術振興機構研究開発戦略センターのセンター長に就任	5.20 (水) 5.21 (木) 5.22 (金)	中日 (夕刊) 日経 (夕刊) 毎日 (朝刊) 日刊工業 読売
12 松尾総長は医学部がトヨタ自動車株式会社と連携し、同社の品質管理手法を医療現場に採り入れるための医師向け講座を10月に開講することについて「医療の質を具体的に『カイゼン』し、患者の満足度を高める効果が期待できる」と語る	5.21 (木)	日経 (朝刊)
13 経済観測：地方経済を見直すタイミング 丹羽宇一郎本学名誉博士	5.21 (木)	毎日 (朝刊)
14 本学や南山大学などの学生グループがきしめんや有松絞など名古屋の名品を集めたカタログギフト「名古屋市のギフト」を作った	5.21 (木)	中日 (夕刊)
15 松尾総長が中日新聞社を訪れ今後の抱負について「世界と戦える世界屈指の大学を目指す」と語る	5.22 (金)	中日 (朝刊)
16 基盤技術で勝ち抜く126：並木精密宝石 サポイン事業採択 天野 浩工学研究科教授が名城大学教授時代にプロジェクトに参加	5.22 (金)	日刊工業
17 本学と東京大学などのグループは超電導体中におけるスピホール効果の観測に成功した	5.22 (金)	日刊工業
18 吉野裕斗さん教育学部附属高等学校生が高校を1年間休学し、24日から世界一周の旅に出ることについて「現地では、何が良い支援なのかをしっかりと見て考えたい」と語る	5.22 (金)	中日 (夕刊)
19 新聞わーくシート：天野 浩工学研究科教授が母校に訪れた新聞をもとに振り返る	5.24 (日)	中日 (朝刊)
20 適度な「ノイズ」は効率アップ 大平 徹多元数理科学研究科教授はプランクトンの出す微弱な電気信号を捉えて捕食するヘラチョウザメが泳ぐ水中に、不規則に変化する弱い電流を流したところ、遠くのプランクトンも見つけて捕獲できるようになったことについて「不規則なノイズを加えることで、隠れた信号があぶり出された」と語る	5.24 (日)	日経 (朝刊)
21 NAGOYA 学生 EXPO 開催：23、24日 企画を担当する学生団体「ナゴ校」広報担当依光莉夏子さん教育学部2年生は「ちっちゃい子から大人まで皆が楽しめる自信があります。お気軽にのぞいて」と語る	5.24 (日)	中日 (朝刊)
22 「性同一性障害 配慮を」文部科学省通知 松尾かずな医学部附属病院病院助教は「児童、生徒の悩みに答えられる先生が教育現場に少ない中で、今回の通知は先生たちの理解が深まるきっかけになると期待している」と語る	5.25 (月)	中日 (朝刊)
23 イスラム留学生 快適に 本学で祈りの場を設置する方針が決定しムスリム学生の生活を理解するための手引きの編集に携わった田中京子国際教育交流本部教授は「多様な文化を持つ者同士が理解を深めて生活環境を作っていくことが大切という認識が全体的に広がってきた」と語る	5.25 (月)	読売
24 法科大学院合同説明会：6月20日 本学や南山大学、名城大学など6校の法科大学院の紹介	5.25 (月)	中日 (朝刊)
25 第21回博物館特別展「関戸弥太郎と宇宙線望遠鏡」開催：26日～9月26日まで	5.25 (月)	日経 (夕刊)
26 夕映え：安川寿之輔本学名誉教授が発行を開始したミニコミ誌「さよなら！福沢諭吉」が取り上げられる	5.25 (月)	朝日 (夕刊)
27 第68回中日文化賞贈呈式：25日 天野 浩工学研究科教授	5.25 (月) 5.26 (火)	中日 (夕刊) 中日 (朝刊)
28 のよりサロン：「真つ当な研究評価を」点数より伸びしろ重要 野依良治本学特別教授が本学学生と議論を交わす	5.26 (火)	中日 (朝刊)
29 トランスフォーマティブ生命分子研究所新棟竣工式：25日 伊丹健一郎トランスフォーマティブ生命分子研究所教授は「ここは、従来の伝統的な研究施設とはまったく違う。素晴らしい成果が出せると信じている」と語る	5.26 (火)	中日 (朝刊) 他3社



本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成27年5月16日～6月15日]

記事	月日	新聞等名
30 本学や南山大学、中京大学の男子学生が結成したチアリーディングチーム「名古屋スパイダーズ」が取り上げられ、キャプテンを務める立野雄也さん本学大学院生が6人だけとなった存続の危機を各大学に勧誘に回り8人を加えることで乗り越え、練習に励んでいる	5.26 (火)	朝日 (夕刊)
31 高校生 レッツ英語討論 名古屋の大学生らリード役 今井幸司さん本学4年生は「関東の大学では、高校時代に大学生に鍛えられた子たちが活躍している」と語る	5.27 (水)	朝日 (朝刊)
32 日本語弁論大会開催：24日 李麗さん本学学生が最高賞の県知事賞に選ばれた	5.27 (水)	中日 (朝刊)
33 ネパール地震 現状報告 雨期 丈夫な住まい必要 減災館でネパール入りした文化人類学者が報告会を行った	5.28 (木)	読売
34 国際標準化最前線53 日本発の技術を世界へ：表面化学分析 キーパーソン 一村信吾イノベーション戦略室教授	5.28 (木)	日刊工業
35 第21回博物館特別展「関戸弥太郎と宇宙線望遠鏡」特別講演会「宇宙線の風をさぐる」開催：6月7日	5.28 (木)	読売
36 日本 ALS 協会愛知県支部総会：6月7日 祖父江 元医学系研究科特任教授が講演	5.29 (金)	中日 (朝刊)
37 山岡耕春環境学研究科教授は口永良部島の新岳の噴火について「大規模な火砕流が発生しており、深刻な噴火」と語り、熊谷博之同教授は「新岳は、どう活動するか予測しづらい火山」と語る	5.29 (金)	中日 (夕刊) 朝日 (朝刊)
	5.30 (土)	中日 (朝刊)
38 本学は長崎大学や産業技術総合研究所などと共同開発した自動運転に必要なソフトウェアを今年の夏をメドに無償公開する	5.30 (土)	日経 (朝刊)
39 濱口元総長が科学技術交流財団の理事長に就任する	5.30 (土)	日経 (朝刊) 中日 (朝刊)
40 福和伸夫減災連携研究センター教授は30日に発生した小笠原沖の地震について「大きな地震は長期的な揺れが多く、東京や大阪のような堆積平野では増幅しやすい」と語り、鷺谷 威同教授は「これほど深い震源で M8.5の地震が起きたとすれば、世界でも過去最大級だろう」と語る	5.30 (土)	朝日 (朝刊)
	5.31 (日)	読売
41 ノーベル賞受賞者を囲むフォーラム「次世代へのメッセージ」開催：30日 天野 浩工学研究科教授が「未来の担い手は皆さんだ。実り多い人生だと後から振り返れるよう、自分の今後について考えてほしい」と語る	5.31 (日)	読売
42 栄 中日文化センターだより 新講座「『痛み』の仕組みと対処法」：「天気痛」佐藤 純動物実験支援センター教授	5.31 (日)	中日 (朝刊)
43 国際交流ウォーキング開催：30日 デリフーザ・アブルカサンさん本学学生は減災館で長周期地震動の大きな揺れなどの地震の基礎知識を学んだことについて「今まで地震の対処法を知らなかったので、とても役に立った」と語る	5.31 (日)	中日 (朝刊)
44 備える3.11から 災前の策 第116回想定シリーズ⑮ 避難所①：曾根好徳減災連携研究センター寄附研究部門教授 地域の情報 共有不可欠	6. 1 (月)	中日 (朝刊)
45 梅雨こそ ボードゲーム：有田隆也情報科学研究科教授は10年以上前から大学の授業に取り入れており「学生が意欲を持って取り組んでくれる」と語る	6. 1 (月)	朝日 (朝刊)
46 小中学校の部活動のあり方を考える公開シンポジウム開催：5月31日 榊 達雄本学名誉教授が「小学校の部活動は廃止すべきだ」と語る	6. 1 (月)	中日 (朝刊)
47 赤崎 勇本学特別教授、天野 浩工学研究科教授を愛知県が名誉県民として顕彰すると発表	6. 1 (月)	中日 (夕刊) 日経 (夕刊)
	6. 2 (火)	毎日 (朝刊) 他2社
48 赤崎 勇本学特別教授が天皇、皇后両陛下が開いたお茶会に日本学士院新会員として出席	6. 2 (火)	朝日 (朝刊) 読売
49 経済団体連合会会長榊原定氏本学卒業生が2日就任2年目に入り、年内の脱デフレ宣言への期待や大学卒の就職活動時期の新ルールについて、調査を実施し検証することなどについて言及	6. 2 (火)	中日 (朝刊) 日経 (朝刊)
	6. 3 (水)	毎日 (朝刊)
50 愛敬浩二法学研究科教授らが呼び掛け人となり、国会で審議中の安全保障関連法案の廃案を求める声明を発表した	6. 3 (水)	中日 (夕刊)
51 天野 浩工学研究科教授が国立モスクワ大学で講演	6. 3 (水)	毎日 (夕刊)
52 濱口元総長が科学技術交流財団の理事長に就任し、同財団会長の豊田章一郎全学同窓会会長が会長を退任し、名誉会長に就く人事を同財団が発表	6. 4 (木)	中日 (朝刊) 日経
53 山岡耕春環境学研究科教授が愛知県防災会議で「火山のない県のための火山防災」と題して講演	6. 4 (木)	毎日 (朝刊)
54 生きものたちの時間 吉村 崇トランスフォーマティブ生命分子研究所教授③：ウズラの光受容器 脳の奥で明暗を感知	6. 4 (木)	中日 (朝刊)
55 防災の知恵：大学の研究 自治体が活用 廣井 悠減災連携研究センター准教授が減災館の取り組みについて「防災に関心が低い若者たちも楽しみながら学ぶことができる場にしていきたい」と語る	6. 4 (木)	読売
56 増えない東大女子：昨年度の本学の女子学生率は29%に対し、東京大学は18.7%	6. 4 (木)	毎日 (夕刊)
57 北野哲司減災連携研究センター寄附研究部門教授は長野県神城断層地震における配水用 PE 管の挙動について「地表地震断層をはじめとする局所的な地盤変状に対する埋設管の耐震技術・耐震設計の発展に寄与すると考える」と語る	6. 4 (木)	日本水道新聞
	6. 8 (月)	水道産業新聞
58 濱口元総長が主査をつとめる文部科学省競争的研究費改革に関する検討委員会はとりまとめに向けた骨子案を提示	6. 5 (金)	日刊工業

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成27年5月16日～6月15日]

記事	月日	新聞等名
59 理学懇話会・講演会開催：6日「植物を動かすもの」をテーマに、研究者2人が講演する	6.5(金)	読売
60 金城学院大学日本語日本文化学会春季大会開催：10日 塩村 耕文学研究科教授が「人文学の継承のために古書とどう付き合うか」を演題に講演	6.5(金)	毎日(朝刊)
61 東海地区主要大学・国立12大学合同進学説明会開催：14日 本学も参加	6.5(金)	毎日(朝刊)
62 名大 VS. 阪大 レガッタ激戦 7日に中川運河で行われる漕艇部が対決するレガッタ「名阪戦」、両チームを率いるのはともに埼玉県立浦和高等学校出身の主将 星野 徹さん工学部4年生	6.5(金)	朝日(朝刊)
63 第58回日本腎臓学会学術総会開催：7日 松尾総長が挨拶をし、丸山彰一医学系研究科准教授が講演	6.6(土)	中日(朝刊)
64 病院の実力：糖尿病 医学部附属病院の治療実績が取り上げられる	6.7(日)	読売
65 益川敏英本学特別教授らが呼びかけ人となった「立憲デモクラシーの会」主催のシンポジウム「立憲主義の危機」開催：6日	6.7(日)	毎日(朝刊)
66 叙位叙勲：正三位 松尾 稔元総長	6.7(日)	中日(朝刊)
67 名古屋大学 国際プログラム 英語で講義 留学生に好評：渡辺理事は「海外には日本語ができなくても、日本で学びたい人はいる。そのバリアーを取ってしまう」と語る	6.8(月)	中日(朝刊)
68 大学改革の行方：日比嘉高文学研究科准教授は「イノベーションとは、予想もつかないところに芽が出るから革新的なわけでしょう。誰もが思いつくところばかりに水をやって、革新的な成果につながるでしょうか」と語る	6.8(月)	朝日(朝刊)
69 天野 浩工学研究科教授はパリの国連教育科学文化機関本部で講演し青色LEDについて「成功すれば世界を変えることができると思っていた」と語る	6.9(火)	中日(朝刊) 毎日(夕刊)
70 紙上診察室：関節リウマチの治療で迷う 生物学的製剤は有効 石黒直樹医学部附属病院病院長	6.9(火)	中日(朝刊)
71 未来社会創造機構の教員と企業が協力する産学連携組織「未来マトリクス」第1回事業説明会開催：13日	6.9(火)	日経(朝刊)
72 耕論：どうする 新国立競技場 設計変更最後のチャンス 榎 文彦本学名誉博士	6.9(火)	朝日(朝刊)
73 本学などのチームは伊勢湾台風が日本列島に上陸、縦断する様子を立体映像で再現したと発表	6.10(水)	毎日(朝刊)
74 豊田合成株式会社主催で2014年ノーベル物理学賞を記念し「赤崎教授・天野教授講演会」開催：10日	6.11(木)	中日(朝刊) 日経(朝刊)
75 環境学研究科の研究グループはコンピュータシミュレーションによる言語隠蔽効果の再現に成功	6.11(木)	中日(朝刊) 朝日(朝刊)
76 本学と北海道大学は共同で病原体やアレルギー物質に対する皮膚の防衛機構を解明	6.11(木)	日刊工業
77 タイムズ・ハイヤー・エデュケーションは2015年アジアの大学ランキングを発表し本学は32位となる	6.11(木)	中日(朝刊) 日経(朝刊)
78 経済観測：地方創生 真のリーダーが必要 丹羽宇一郎本学名誉博士	6.11(木)	毎日(朝刊)
79 飯島澄男本学特別招へい教授が欧州発明家賞の外国人発明家賞を受賞	6.12(金) 6.13(土)	読売 毎日(朝刊) 朝日(朝刊)
80 伊藤正樹生命農学研究科准教授らのグループは、植物の細胞分裂を支配する新しい調節遺伝子を発見	6.13(土)	中日(朝刊)
81 未来社会創造機構設立記念式典及びナショナルイノベーションコンプレックス竣工式開催：16日 松尾総長は「愛知にはものづくりが根付いている。地域の強みを生かし革新的な技術を発展させたい」と語る	6.13(土)	日経(朝刊) 他3社
82 10周年記念憲法講座「戦争立法止めて平和をまもる」開催：20日 森 英樹本学名誉教授が講演	6.13(土)	朝日(朝刊)
83 ドクター井口のほのぼのクリニック：「アラ！先生いたの？」愛知淑徳大学教授井口昭久氏元本学教授	6.13(土)	毎日(朝刊)
84 愛知県弁護士会が集団的自衛権行使のための法整備に反対する集会を白川公園で開き、森 英樹本学名誉教授が講演	6.14(日) 6.15(月)	読売 中日(夕刊)
85 私の履歴書⑭：プラズマ生成 理化学研究所理事長松本 紘氏がかつて本学のプラズマ研究所で実験をした様子が取り上げられる	6.14(日)	日経(朝刊)
86 名古屋大学遠州会第20回同窓会と天野 浩教授記念講演開催：13日 天野 浩工学研究科教授が講演し「世界の問題を見据え、社会貢献に全力で取り組みたい」と語る	6.14(日)	静岡新聞



開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

5月26日(火)～9月26日(土)

場 所：博物館 2階展示室  
時 間：10:00～16:00  
休 館 日：日・月曜日、8月13日～15日  
入 場 料：無料

第21回博物館特別展「関戸弥太郎と宇宙線望遠鏡」

[関連特別講演会]  
8月1日(土)  
場 所：博物館 3階講義室  
時 間：13:30～15:00  
講演題目：「チェレンコフ望遠鏡で探る宇宙線のふるさと」  
講 演 者：田島宏康 (太陽地球環境研究所教授)  
参 加 費：無料

[問い合わせ先]  
博物館事務室 052-789-5767



6月10日(水)～9月30日(水)

場 所：附属図書館医学部分館  
2階入口ホール  
時 間：9:00～20:00 (平日)  
(8/10～9/30は9:00～17:00)、  
13:00～17:00 (土曜日)  
休 館 日：日・祝日、  
8月8日、13日～15日、22日、  
25日～31日  
入 場 料：無料

附属図書館医学部分館ミニ展示会  
「伝染病と闘ってきた」

一虎列刺 壑扶私 痘瘡 實布埒利亞 黒死病 そして一  
内 容：医学部史料室(附属図書館医学部分館4階)に所蔵する史料の中  
から、「伝染病予防法」施行前後の人間と伝染病との歴史に関連する古  
医書、掛図などを展示公開する

[問い合わせ先]  
附属図書館医学部分館 052-744-2505



7月4日(土)～25日(土)、  
7月24日(金)～9月5日(土)

場 所：博物館 2階展示室  
時 間：10:00～16:00  
休 館 日：日・月曜日、8月13日～15日  
入 場 料：無料

博物館スポット展示

テ ー マ：「第四紀における人類の進化と文化」(7/4～25)  
「鈴木五郎 石と陶器の融合アート」(7/24～9/5)

[問い合わせ先]  
博物館事務室 052-789-5767



7月6日(月)～10月30日(金)

場 所：博物館野外観察園  
セミナーハウス2階  
時 間：10:00～16:00  
休 館 日：土・日・祝日、8月13日～16日  
(7月25日、8月29日、  
10月10日臨時開館)  
入 場 料：無料

博物館野外観察園セミナーハウスサテライト展示  
「ムシの世界—名古屋大学博物館の昆虫標本と  
切り紙と博物画」

[関連ワークショップ]  
切り絵実演  
8月5日(水) 10:00～12:00  
8月27日(木) 10:00～12:00  
10月10日(土) 11:00～12:00、13:30～15:00  
講 師：石川進一朗氏(切り紙作家)

[問い合わせ先]  
博物館事務室 052-789-5767



7月18日(土)

場 所：シンポジウムホール  
時 間：13:30～16:30  
定 員：100名  
対 象：一般  
参 加 費：無料

地球水循環研究センター公開講演会  
「ふたたび雲をつかむ話」

講演題目：「雲の中では何が起きているのか 雲・降水の微物理過程」  
講 演 者：荒木健太郎氏(気象庁気象研究所研究官)  
講演題目：「地球の気候と雲のかかわり」  
講 演 者：鈴木健太郎氏(東京大学准教授)  
講演題目：「雲、その振る舞いをシミュレーションで再現する挑戦  
—次世代大型計算機でのさらなる雲科学の発展にむけて」  
講 演 者：佐藤陽祐氏(理化学研究所基礎科学特別研究員)  
講演題目：「地球以外の惑星・衛星に見られる雲 地球の雲との共通点と相違点」  
講 演 者：杉山耕一朗氏(宇宙航空研究開発機構研究員)

[問い合わせ先]  
研究所事務部総務課 052-789-3466



開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

**7月25日(土)～8月9日(日)**  
場 所：愛知県および周辺地域

## 夏休みあいちサイエンスフェスティバル2015

内 容：主に小学生から高校生向けの様々なサイエンス/  
ものづくりイベントが集合する地域科学祭



[問い合わせ先]  
学術研究・産学官連携推進本部  
特任講師 成 玖美 052-747-6527

**7月25日(土)、8月29日(土)**  
場 所：博物館 2階実験室、展示室、  
東山キャンパス  
時 間：10:00～15:30  
定 員：各21名  
対 象：小学5年生以上、一般  
参 加 費：50円(保険料)

## ミクロの探検隊®

### 「名古屋大学のムシを電子顕微鏡で観察しよう！」

テ ー マ：「観察園のムシⅠ」(7/25)、「観察園のムシⅡ」(8/29)  
内 容：本学構内で各自ムシを採集し、実体顕微鏡、走査型電子顕微鏡  
を使用し微細構造の観察をしながら分類や働きを学ぶ



[問い合わせ先]  
博物館事務室 052-789-5767

**7月30日(木)～8月12日(水)**  
場 所：2008ノーベル賞展示室  
(E5 総合館 2階)  
時 間：10:00～16:00  
休 館 日：日・月・祝日  
入 場 料：無料

## 2008ノーベル賞展示室

### ニュートン著「プリンキピア」第2版(1713年出版) オープンキャンパス特別展示

[関連特別講演会]  
8月11日(火)  
時 間：13:30～14:30  
講演題目：「分子の光が拓く世界」  
講 演 者：山口茂弘(トランスフォーマティブ生命分子研究所教授)  
内 容：分子の発光を極めることによりどのような世界が広がるのか、  
その未来を語る



[問い合わせ先]  
理学部・理学研究科事務部 052-747-6577

参 加 費：無料

**8月1日(土)**  
場 所：メナード美術館別館アネックス・  
ホール(愛知県小牧市)  
時 間：13:00～16:00  
定 員：20名  
対 象：小学4年生から中学生  
参 加 費：50円  
(保険料、別途入館券が必要)

## ミクロの探検隊® in メナード美術館

講 師：野崎ますみ(博物館研究員)、  
足立 守(PhD 登龍門推進室特任教授)  
内 容：電子顕微鏡を使って鉱物・昆虫・植物のミクロの世界を観察する

[問い合わせ先]  
博物館事務室 052-789-5767

**8月4日(火)**  
場 所：ベンチャービジネスラボラトリー  
3階ベンチャーホール  
時 間：10:30～17:00  
定 員：16名  
対 象：高校生  
参 加 費：無料

## 日本学術振興会連携事業 ひらめき☆ときめきサイエンス ～ようこそ大学の研究室へ～ KAKENHI

テ ー マ：「周期表の中のC、N、O、Fと身近な材料がどのようにくっつくか調べよう」  
内 容：炭素C、窒素N、酸素O、フッ素Fの4つの元素が身の回りの「もの」と  
どういう反応をするか、撥水加工技術、電子顕微鏡、コンピュータシミュ  
レーションで実際に体験する

[問い合わせ先]  
学術研究・産学官連携推進本部  
研究員 梅村綾子 052-747-6527



開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

**8月18日(火)～10月15日(木)**  
(期間内の火・木曜日)

場 所：ES 総合館 1階 ES ホール  
時 間：18:00～19:30  
定 員：200名  
対 象：一般（満18歳以上）  
参 加 費：9,460円（全15回）

**平成27年度名古屋大学公開講座**

テ ー マ：「秩序と渾沌」

[問い合わせ先]

研究協力部社会連携課 052-747-6584

**8月20日(木)、21日(金)**

場 所：IB 電子情報館南棟 4階462号室  
時 間：10:00～17:00 (8/20)、  
10:00～17:30 (8/21)  
定 員：12名  
対 象：中学生、高校生  
(両日参加可能な方)  
参 加 費：無料

**日本学術振興会連携事業 ひらめき☆ときめきサイエンス  
～ようこそ大学の研究室へ～ KAKENHI**

テ ー マ：「3D プリンタを使って臓器モデルを作ろう！ー医用画像処理の体験」  
内 容：「CT画像」をコンピュータで処理する医用画像処理と3D プリンタの医療  
応用について学ぶ

[問い合わせ先]

情報科学研究科  
助教 小田昌宏 052-789-5688

**8月30日(日)**

場 所：理学研究科附属臨海実験所  
(三重県鳥羽市)  
時 間：11:00～16:20  
定 員：20名  
対 象：小学5年生から高校生  
参 加 費：無料

**日本学術振興会連携事業 ひらめき☆ときめきサイエンス  
～ようこそ大学の研究室へ～ KAKENHI**

テ ー マ：「海岸生物を採集し、受精発生のしくみを調べてみよう」  
内 容：磯生物の観察、ウニの配偶子観察と受精実験、ウニの発生観察、  
ホヤの講義、他

[問い合わせ先]

理学研究科附属臨海実験所  
教授 澤田 均  
hsawada@bio.nagoya-u.ac.jp

名大トピックス No.266 平成27年7月15日発行

編集・発行／名古屋大学総務部広報渉外課

本誌に関するご意見、ご要望、記事の掲載などは広報渉外課にお寄せください。

名古屋市千種区不老町（〒464-8601）

TEL 052-789-2016 FAX 052-788-6272 E-mail kouho@adm.nagoya-u.ac.jp

名大トピックスのバックナンバーは、名古屋大学のホームページ

(<http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/topics/>) でもご覧いただけます。

表紙

名大祭茶会

(裏千家茶道部)

(平成27年6月6日)



## 159 宇宙線望遠鏡ドームと宇宙線研究室資料

東山キャンパスの南東部、総合保健体育科学センターの向かいに、いわゆる宇宙線望遠鏡ドームがあります。この中には、今年の1月から3月にかけて解体されるまで、かつて使われていた宇宙線望遠鏡がありました。

宇宙線望遠鏡とは、宇宙から飛来する放射線である宇宙線を観測する装置です。宇宙線といえば、2002(平成14)年にその観測によって小柴昌俊博士がノーベル賞を受賞した、ニュートリノもその一種です。

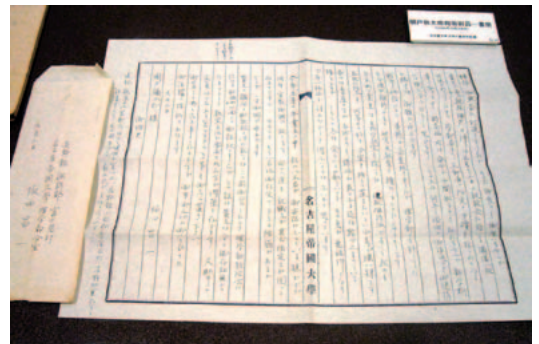
名大の宇宙線研究は、名古屋帝国大学理学部物理学科に宇宙線研究室（H研）が設置された1946(昭和21)年以降の歴史を持っています。それは、理化学研究所の研究者として戦前から先駆的に研究に取り組み、H研の設置と同時に名大に教授として招かれた関戸弥太郎（1912-1986）を中心として発展をはじめました。

その後、1958(昭和33)年に理学部附属宇宙線望遠鏡研究施設が設置されましたが、その宇宙線望遠鏡の第3号とし

て製作され、1961年から観測を開始したのが、ドーム内にあった望遠鏡です。ガスチェレンコフ式という最新の方式を初めて実用化したものとして、当時学界の注目を集めました。この望遠鏡は、八角形の筒が2つ連なった特徴的な形状もさることながら、1つの筒の外径が4.6mにも及ぶ巨大なものでした。また、それを内包するドーム内には宇宙線の研究室等が置かれました。

このたび、第3号望遠鏡が解体されるに先立って、ドーム内の研究室に残されていた膨大な資料が、博物館及び大学文書資料室に移管されました。文書資料には、H研の活動記録だけでなく、関戸教授が置いたままにしていた個人記録も含まれており、宇宙線研究の歴史を解明するきわめて重要な史料となることが期待できます。

現在開催中の、名古屋大学博物館特別展「関戸弥太郎と宇宙線望遠鏡」（9月26日(土)まで）もぜひご覧ください。多くの宇宙線研究室資料が展示されています。



1	2	5
3	4	

- 現在の宇宙線望遠鏡ドーム（高さ15m、直径24m）。理学部附属宇宙線望遠鏡研究施設は、1990年に空電研究所と統合して太陽地球環境研究所となった。ドームの隣には、宇宙線望遠鏡第6号（大型中間子モニター）の建屋があり、現在も稼動している。
- 建設中の宇宙線望遠鏡ドーム。当時は、まだ豊田講堂もなく、本日も名城キャンパスにあった。
- 解体直前の宇宙線望遠鏡第3号（2015年）。
- ドーム内の研究室に残されていた資料（写真は一部）。2013年に、物品類は博物館へ、文書類は大学文書資料室へ移管された。
- 坂田昌一理学部教授から関戸弥太郎への書簡（1945年9月2日）。関戸の教授採用が教授会で決まったこと、理学部は疎開先に当分とどまることになりそうであること、などが記されている（博物館特別展で展示中）。